

教育心理学のための統計学ーテストでココロをはかるー

第2章 適性処遇交互作用 ー 一般線形モデル ー

2015.10.25 熊谷龍一・荘島宏二郎

表2-3, 表2-4の分析 v04c2table2-1.savを使用

本稿は 第1巻SPSS資料を 既知として 解説しています

データに関する注意

- テキストの出力に合わせるため、
- 講義=2, eラーニング=1, 短時間=2, 長時間=1とコーディング

	適性	処遇	成績向上点	var
1	2	2	8	
2	2	2	9	
3	2	2	10	
4	2	2	9	
5	1	2	6	
6	1	2	9	
7	1	2	8	
8	1	2	5	
9	2	1	9	
10	2	1	4	
11	2	1	7	
12	2	1	11	
13	1	1	17	
14	1	1	9	
15	1	1	14	
16	1	1	13	
17				

表2-3, 2-4の分析 1/3

分析→一般線形モデル→1変量

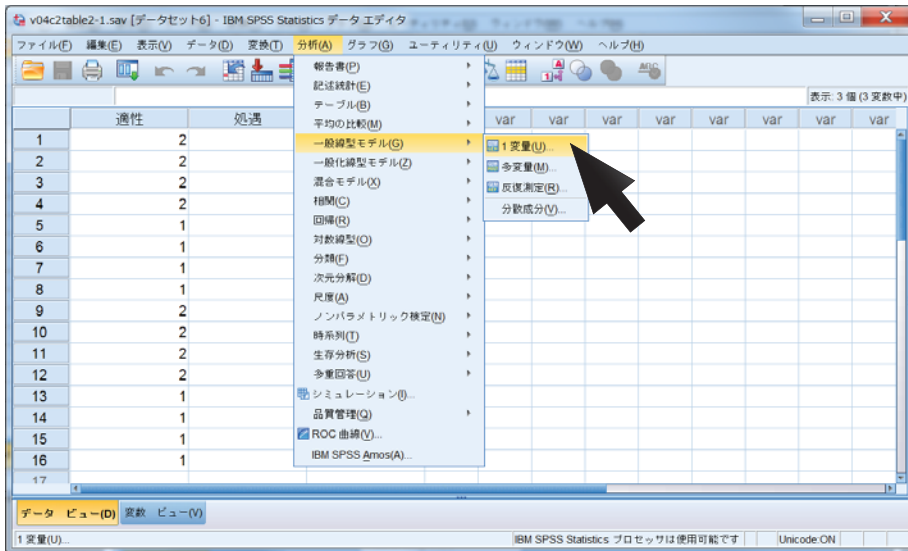


表2-3, 2-4の分析 2/3

①成績向上点を従属変数へ

②適性と処遇を固定因子へ

③オプションを押す

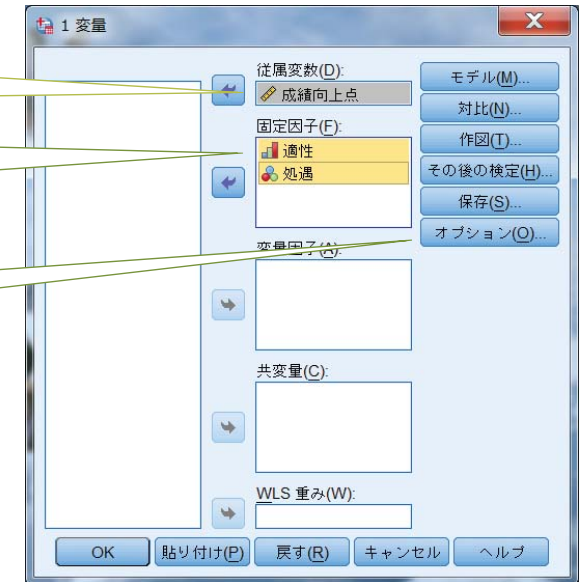


表2-3, 2-4の分析 3/3

記述統計に
効果サイズの推定値に
パラメータ推定値に

続行で前の画面に戻り
OKを押す

出力は混乱なくテキスト
と照合できるので省略

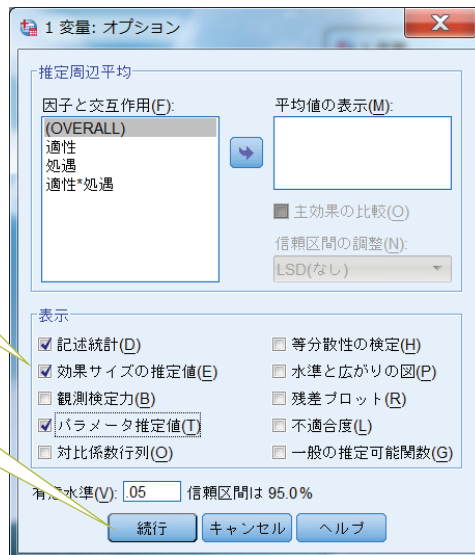


表2-7の分析

v04c2table2-5.savを使用
データ中、テキストの出力に合わせるため
講義=2, eラーニング=1とコーディング

表2-7の分析 1/3

分析→一般線形モデル→1変量

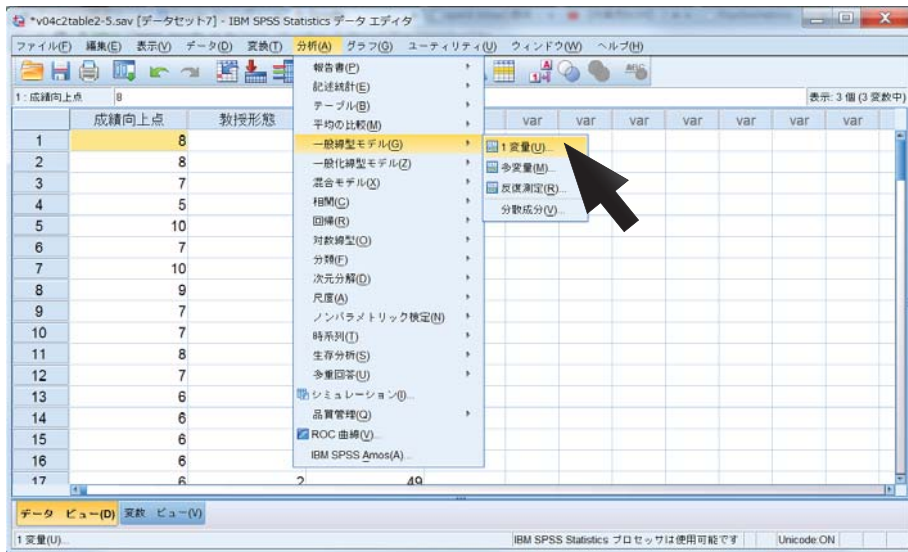


表2-7の分析 2/3

①成績向上点を
従属変数へ

②教授形態を
固定因子へ

③利用時間を
共変量へ

④オプションを押す

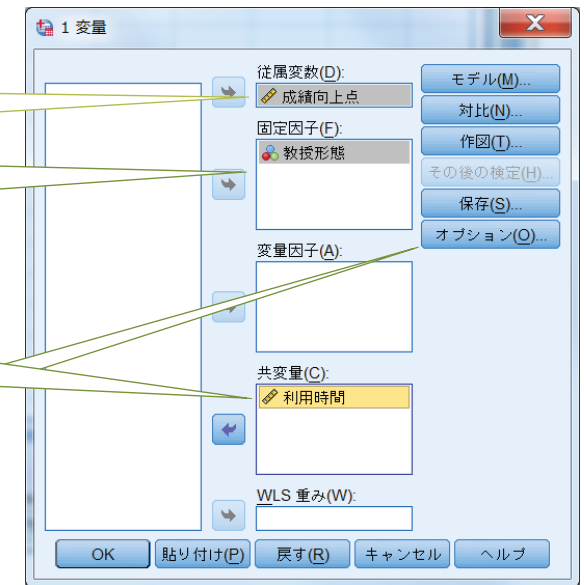


表2-7の分析 3/3

記述統計に
効果サイズの推定値に
パラメータ推定値に

続行で前の画面に戻り
OKを押す

出力は混乱なくテキスト
と照合できるので省略

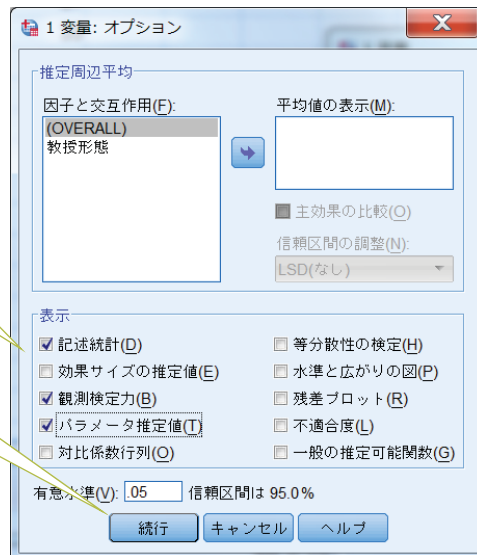


表2-9, 表2-10の分析

v04c2table2-5.savを使用
データ中、テキストの出力に合わせるため
講義=2, eラーニング=1とコーディング

表2-9, 2-10の分析 1/4

分析→一般線形モデル→1変量

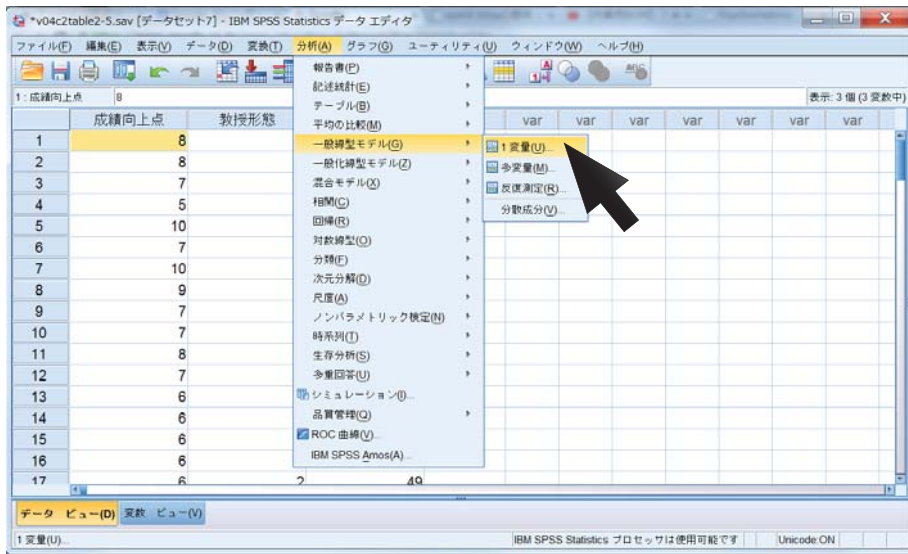


表2-9, 2-10の分析 2/4

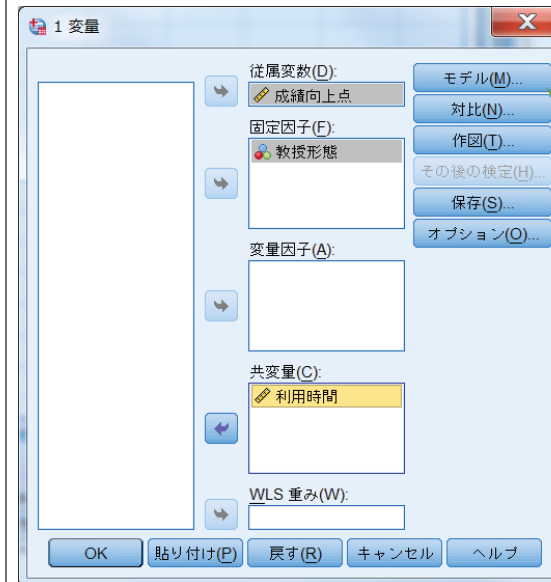
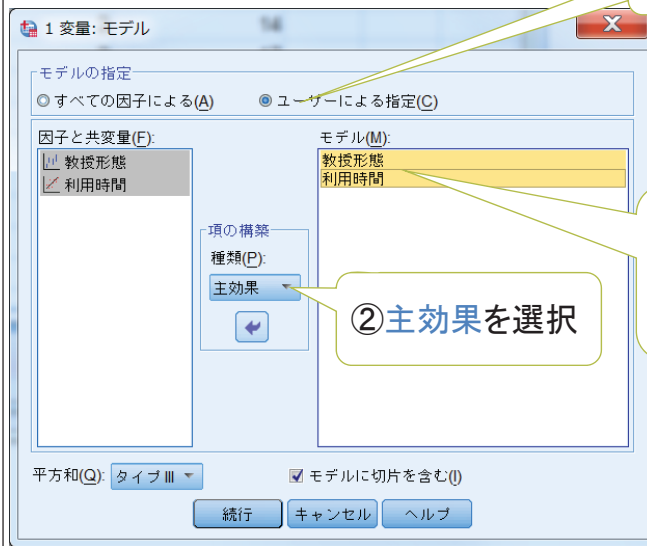


表2-7の分析時の操作結果が残っているので利用する

モデルを押す

表2-9, 2-10の分析 3/4

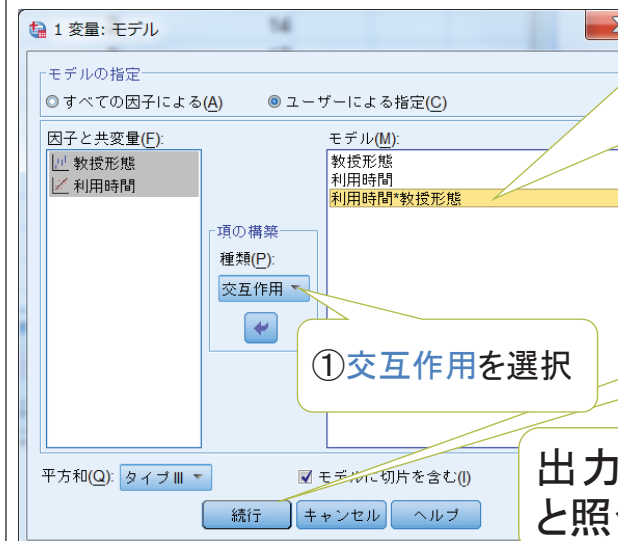


① ユーザによる指定

② 主効果を選択

③ 左のボックスから2つの変数を選択して右のボックスへ

表2-9, 2-10の分析 4/4



② 左のボックスから2つの変数を選択して右のボックスへ
利用時間*教授形態という項が右ボックスに作成される

① 交互作用を選択

③ 続行で前の画面に戻りOKを押す

出力は混乱なくテキストと照合できるので省略